

認知症地域支援推進員の経験を通して



桜十字グループ 有料老人ホーム木春熊本市東

地域支援コーディネーター

神崎 祐子(元認知症地域支援推進員)

熊本市東区役所認知症地域支援推進員として (H28年4月～H30年10月)

熊本市は県内人口の約43.4%にあたる約74万人の市民が住む。平成24年に九州で3番目の政令指定都市に移行。豊富な地下水、水前寺江津湖湧水群などを称えて「水の都」とも呼ばれている。

熊本市		熊本市東区
73.7万人	人口	19万人
20万人	高齢者数	4.9万人
27.7%	高齢化率	25.3%
27か所	包括支援センター	5か所

平成28年4月に入職。2日後に熊本地震を経験

<震災時の認知症高齢者の現状>

- 地震による自宅損壊や避難するため、慣れない場所での生活が続いた
- 他者との荷物を取り違える、帰宅要求や徘徊などの不穏症状が出現
- 認知症の方とその家族は、避難所利用を躊躇して車中泊を余儀なくされた



避難所への避難者最大数

183,882名

(平成28年4月17日、855箇所開設)

私が心掛けてきたこと

➤ 自分事として捉える

自身も地域住民の一員として、何事も自分事として捉え行動する

➤ 自分で決断しない・1人で抱え込まない

本人主体に考え行動し、一人で抱え込まないために関係機関と密に連携を図る

➤ 大きな事をする必要はない

目の前のできることから取り組む

情報収集

担当地域にどのような地域資源があるか情報収集する

認知症地域支援推進員を知ってもらうため、医療機関、地域包括支援センター、認知症カフェなどの機関などの現状を把握する。

STEP 1		STEP 2	
医療	認知症サポート医が所属している医療機関、精神科地域連携室へ推進員として挨拶回り	医療	事前相談、情報提供、受診同伴。 受診後のスムーズなフォロー。
地域包括支援センター	公民館での活動など地域活動や、自治会の取組、認知症家族会などの情報収集する	地域包括支援センター	当事者や家族にインフォーマルな情報提供。必要に応じて認知症サポート養成講座を実施し、地域住民の認知症に対する声を聴取する。家族会や模擬訓練などに参加し地域住民と一緒に取り組む。
認知症カフェ	認知症カフェ開設事業所やカフェへの参加、活動内容や課題について情報を収集する	認知症カフェ	お互いの共通の悩み事や情報共有の機会をつくる。認知症相談MAPを作成し地域住民への情報提供を行う。

認知症カフェを活用した

①多世代交流・実践型認知症サポーター養成講座

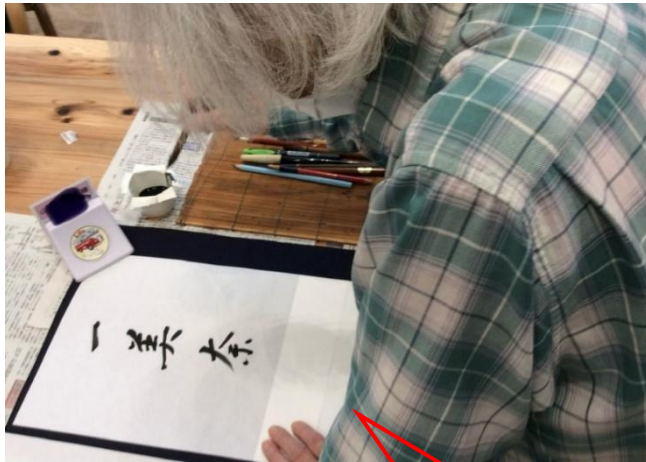
情報収集	認知症カフェ	学生ボランティア
課 題	・地域住民へ認知症カフェを身近に感じてほしい ・認知症を正しく理解してほしい ・地域との繋がりを作りたい	・認知症の方と接したことがない ・認知症の方への理解を深めたい ・認知症の親族がいるため関り方を学びたい
実 践	認知症カフェを活用した 多世代交流・実践型認知症サポーター養成講座	
結 果	多世代で認知症を学び、当事者の方と交流を図ることで認知症に対する負のイメージを払拭。現在も学生ボランティア（Orange Project）が定期的に認知症カフェを訪れ、学生が主体となって様々な企画を提案し当事者の方との交流を継続している。	



現認知症地域支援推進員との繋がり

前認知症地域支援推員

現認知症地域支援推員



繋がり・協働



あら。最近書いてないけど、こんなで喜んでもらえるならいくらでも書けるわよ

認知症地域支援推進員の経験を通して感じた事

- 情報収集していくと課題が見えてくる
- 本人声を聴き、仲間を増やし取り組むこと
- 地域住民としての視点を持ち続ける
- 焦らず目の前のできることから取り組む

